

CAGLIERO¹¹

カリエロ11

サレジオ会宣教ニュース N.38 - 2012年2月

サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信



親 愛なるサレジオ会員の皆さん、サレジオ・ミッションの友人の皆さん、

昨年2011年の11月25日から27日にかけて、ヨーロッパ8管区で働く30人の若い宣教師たちとその長上たちの集いが、ローマで行われました。立ち向かう挑戦を前にしての宣教師たちの熱意、喜び、信仰の精神、献身的な姿は、驚くべきものでした。この10年間に、約80人の会員がヨーロッパ各地の管区を強めるために派遣されています。その半数は、2008年にプロジェクト・ヨーロッパが始まってから派遣されています。大海の一滴だと言えるかもしれませんが、地球の反対側から若い会員がやってくることにより、高齢化した、単一の文化だった管区に多くの実りが生まれています。その会員は希望をもたらし、管区共同体を若返らせます。若者たちと親しく関わり、召命の実りもあります。そして多くの若い移民と関わることに貢献しています。

世界中のすべてのサレジオ会管区の大きな信仰と献身的関わりが、ヨーロッパのサレジオ会カリスマの再活性化を進めます。2008年の第二回ヨーロッパ管区長会議で、総長は、プロジェクト・ヨーロッパが類を見ない提案であると指摘しました。ヨーロッパにさらに宣教師が送られることを祈りつつ、会全体で取り組むこのプロジェクトに、私たちがどのように貢献できるか、考えてみたいと思います。

Václav Clement
宣教顧問
ヴァツラフ・クレメンテ神父

プロジェクト・ヨーロッパに貢献するには？

第

26回総会の終わりに、チャーベス総長はプロジェクト・ヨーロッパの意義を説明しました。「今日、かつてないほど、ヨーロッパにおける私たちの存在について考え直す必要があることに私たちは気づいています。第26回総会議員があずかった謁見の際、私がすでに教皇様に申し上げたように、この考えは、「ヨーロッパ大陸におけるより大きな影響と効果のため、サレジオ会の活動を再編成することをねらうものです。すなわち、この若者たちの霊的、精神的なニーズに応えるため、新しい形の福音宣教を探索するものです。若者たちは、導き手もなく、行くあてもなく、さまよっているように私たちには見えます。」

したがって、今日のヨーロッパにおいてサレジオ会カリスマをより意義深い、実りあるものとするために、最も必要のある諸管区に、サレジオ会員の人材を送って若返らせることになりま。そのため、次のことを明確にしたいと思います：

- ・これは会のプロジェクトです。
- ・人材の派遣において、すべての地域・管区が関わります。
- ・共同体を強めること。共同体は、諸文化の交わり場となり、若者たちのうちにドン・ボスコを存在させるように呼ばれています。特に、最も貧しく、見捨てられ、危険にさらされている若者たちのために。
- ・プロジェクト全体は、直接宣教の使命に関わる三部門の連携調整にゆだねられます。

このプロジェクトによって、明らかに旧大陸の共同体は構造的な変化を求められるようになるでしょう。「新しい皮袋に新しいぶどう酒」です。したがってそれは、単なる「組織の維持」の仕事ではなく、表現すべき新しいプロジェクト、今日の若者の傍らに共にあることなのです。私たちは、神と若者への情熱に富んだドン・ボスコの心をもって進みます。新しいヨーロッパ社会の構築において共に協力して働くため、新しいヨーロッパが真に「魂」を持ち、堅固なその精神的・文化的根源を再び見いだすため、新しいヨーロッパが社会的レベルで、差別や社会的疎外を招く決定をゆるさず、教育的・文化的提案がなされる余地と均等な機会を与えるものとなるために。

優先事項の中でも、最も重要な次のものを挙げたいと思います：

- ・若者のための新たな活動を生み出す。
- ・ダイナミックで革新的な取り組みを奨励する。
- ・召命を育む。

ますますヨーロッパ的な考え方を深め、さまざまな部門における管区間の協同の働きを強め、地域レベルの協力を強化しながらこの文脈で働く会員たちは、こういったすべてのことによって助けられるでしょう。それでは私は、プロジェクト・ヨーロッパのために何ができるでしょうか？



ヨーロッパにおけるサレジオ会宣教師の第1回会議参加者(2011年11月25-27日 Pisanaにて)

宣教師として、この国のサレジオ会員にドン・ボスコのカリスマを伝える



インドのナシクでポスト・ノビスの時期を過ごしていたとき、毎月の「宣教の日」の集まりに参加していました。ある集まりのときに、私は自分の宣教師の召命を発見しました。集まりで見たさまざまな宣教のビデオや、絶えず祈り、神との絆を深めたことは、宣教師としての召命を深めるのに大いに役立ちました。

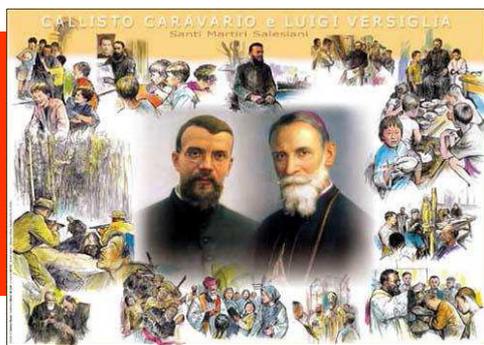
ローマでの新宣教師研修コースに参加することができ、ピエモンテのサレジオ会の聖地に巡礼できたことを感謝しています。それは理論と体験という二つの側面から、サレジオ会宣教師としての召命の価値を理解する助けになりました。コースで聞いた数々の話の中で私の印象に残ったのは、文化受容の鍵として

言語を習得することの重要性についてでした。体験という面では、サレジオ会の聖地への巡礼によって、サレジオ会カリスマの源泉を再体験でき、宣教師として自分はこのカリスマを担うのだという意識を深めることができました。私はこのカリスマを守り、深め、ハンガリーのサレジオ会員に手渡さなければならないのです！

ハンガリーにはサレジオ会員が非常に少ないので、仕事はたくさんありますが、宣教師として、がむしゃらな活動主義に陥る誘惑を避けなければならないということにも気づきました。自分の霊的、知的、感情的な養成に十分に気を配らなければなりません。

また、宣教師として、どこに派遣されようと、それがインドであろうと、ハンガリーや世界のほかのどこであろうと、忍耐強く、謙遜に、その国の社会・文化に溶け込む努力をすることが重要だと気づきました。遣わされたところの人々にイエス・キリストをもたらし、予防教育法を通して若者へのドン・ボスコの愛を分かち合うために。

インド出身、ハンガリーの宣教師 **デロッシ・ラジャ**神学生



2012年2月27日

サレジオ会殉教者の初穂 聖ヴェルシリア、聖カラヴァリオの祝日
すべてのサレジオ会宣教師のために、特別に祈りを捧げましょう。



サレジオ会の宣教の意向

ハイチ-サレジオ会事業再建の歩み

ハイチのサレジオ会が、引き続き勇気をもってサレジオ会事業の再建に取り組むことができますように。

2010年1月12日に起きた大震災から2年がたち、首都ポルトープランスの各共同体の再建は目に見えて進んできています。しかし、建物を建てるだけでなく、何よりもアメリカ大陸で最も貧しいこの国でのミッションの再建のために、まだ遠い道のりを歩まなければなりません。

